

「夢洲 IR カジノ」アセス準備書

「大阪・夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業 環境影響評価準備書」が、先月 27 日から公告・縦覧されている。「意見書」作成を準備しつつあるが、夢洲 IR カジノ事業の施設建設に重要な影響を及ぼす準備書について、概要を紹介したい。

全体で 865 ページの準備書は、つぎの 10 章で構成されている。第 1 章 事業計画
第 2 章 対象事業を予定している区域及びその周囲の概況 第 3 章 事業計画に反映した環境配慮の内容 第 4 章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法
第 5 章 環境影響評価の結果 第 6 章 環境の保全及び創造のための措置 第 7 章 事後調査の方針 第 8 章 環境の保全及び創造の見地からの意見と事業者見解
第 9 章 特定届出の種類 第 10 章 委託先の氏名等

方法書（調査・予測方法）の次の手続きである準備書（予測・評価の結果・環境保全対策）なので、全体の 8 割が第 5 章である。第 5 章の最後の方(782 ページ)に、環境影響の総合的な評価、いわば準備書の結論が次のように書かれている。

「大気質、水質・底質、土壌、騒音、振動、低周波音、電波障害、廃棄物・残土、地球環境、気象（風害を含む）、動物、植物、生態系、景観、自然とのふれあい活動の場について、事業の実施が事業計画地周辺の環境に及ぼす影響について予測を行った結果、いずれの項目についても環境保全目標を満足するものと評価された。」そして、環境影響評価項目ごとの調査、予測及び環境保全対策の検討結果がまとめられている。

準備書を一読して感じたことは、方法書に対する私を含め、市民らの意見がほとんど反映されていないことだ。型どおりの調査報告がされているが、「はじめに結論ありき」の準備書といえる。とりわけ疑問なのは、第 5 章の最後（818 ページ～）の夢洲内において実施される他事業との複合的な影響である。この点も私の方法書に対する意見書で指摘した。

「本事業の建設工事中及び供用時における夢洲内において実施される他事業は、建設工事中では大阪・関西万博事業（建設工事・開催・撤去工事）、夢洲島内インフラ工事、大阪市の液状化対策工事等であり、供用時には現在予定されていない。」夢洲 IR カジノの工事は 2024 年夏頃から開始される予定だが、大幅に遅れている万博工事と重なる。この複合的な影響の環境影響は、楽観的な見通しが目立つが、それ以上に問題なのが、夢洲 4 区のコンテナターミナルの事業がまったく無視されていることだ。大阪港最大のコンテナターミナルは大阪経済、物流部門の中核としてきわめて大きな役割を果たしている。建設工事中だけでなく、供用時においても本事業の複合的な影響を評価するうえで無視できないはずだ。

夢洲の軟弱地盤、液状化や地盤沈下については別途レポートしたい。

(2023 年 11 月 3 日)